

令和七年度 卒業式 式辞

校長 鈴木 伸和

三月に入り暖かい日が増え、札幌に降った雪も少なくなり、春の始まりを感じるようになってまいりました。本日、PTA会長 服部様をはじめとするご来賓の皆様、そして、多くの保護者の皆様のご臨席を賜り、本校第 65 回卒業証書授与式を行えますことに心より感謝を申し上げます。

本日、旅立ちの時を迎えました244名の三年生の皆さん、卒業おめでとうございます。ただいま皆さん一人一人に卒業証書をお渡ししました。未来を見据える希望を、皆さんの瞳の奥に感じました。中学校三年間の生活を通して、自らの進む道を、自らの力で切り開いてきた証だと思います。その証をぜひ誇りに思ってください。

さて、皆さんが今日、旅立ちの歌として歌い上げる「手紙 ～拝啓 十五の君へ」には、これから歩みを進める皆さんへの、大切なメッセージが込められています。

「負けそうで 泣きそうで 消えてしまいそうな僕は 誰の言葉を信じ歩けばいいの」という歌詞にあるように、今の皆さんは、不安や迷いの中にいるかもしれません。これから進む道に確信がもてず、何を信じ、どう歩めば良いのかと戸惑うこともあるでしょう。しかし、その迷いこそが、皆さんが真剣に自分と向き合い、未来を切り開こうとしている証なのです。

三年間の学校生活で、皆さんは多くの経験を積み重ねました。喜びを分かち合った仲間、陵北中学校の先生方との出会い、そして何より、いつも一番近くで支えてくれた保護者。これらの人々との絆こそが、皆さんがもつべき、最も信頼できる道標です。

また、この歌には、こう問いかける一節があります。

「人生の全てに意味があるから 恐れずにあなたの夢を育てて」

未来の自分に手紙を書くように、皆さんが描く「夢」は、この瞬間から始まっています。誰かの真似をする必要はありません。自分らしく、正直に、自分の心の声に耳を傾け、自らの信念に基づいて行動してください。成功も失敗も、遠回りの経験も、すべてが皆さんの歩む人生の物語を彩る大切な意味をもつことになります。

将来、壁にぶつかり、くじけそうになった時、今日の卒業式で歌った「手紙 ～拝啓 十五の君へ」を思い出してください。あの時、まっすぐ前を見つめていた自身の力強い声を。未来は、不安なものではなく、希望に満ちたものです。自らの可能性を信じ、恐れることなく、一步一步、力強く前進してください。

改めまして、保護者の皆様に、一言ご挨拶申し上げます。お子様が、義務教育を終えて巣立つ日を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。こうして、大きく逞しく成長した姿をご覧になり、お喜びもひとしおかと存じます。お子様のご卒業をお祝い申し上げるとともに、これまでの本校の教育活動へのご理解とご協力に心から感謝を申し上げます。

結びになりますが、卒業生の皆さんのこれからの人生が、幸多きものとなることを心から願い、第65回卒業証書授与式の式辞といたします。

令和七年度 卒業式 答辞

卒業生代表

雪がとけはじめ、日ごとに春らしくなってきました。今日、私たちは九年間の義務教育を終え、陵北中学校を卒業します。

先生方、在校生の皆さん、私たちのためにこのような素晴らしい式を準備していただき、本当にありがとうございます。来賓の皆様、保護者の皆様、私たちのためにお忙しい中、足をお運びいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

三年前、新入生歓迎会で初めて会った先輩方は、とても背中が大きく、その堂々と自信に満ち溢れた姿に圧倒されたことを覚えています。思い起こせば、様々な出来事がありました。新しい生活が始まり、期待と不安で胸がいっぱいだった一年生。部活動や行事など右も左もわからない私たちが頑張ることができたのは、助けてくださった先輩や先生方のおかげです。たくさんの人に支えられ、少しずつ不安が解消されていきました。そして、校外学習などの行事を通して、協力し、団結することの大切さを学びました。

クラス替えがあり、より多くの友達と交流するようになった二年生。中学校に入って初めての後輩ができ、うれしさを感じると同時に、後輩に嫌われていないか不安になったり、責任の大きさを感じたりするようになりました。友達とともに二日間を過ごした宿泊学習。体育館を貸し切って行った学年レクが一番記憶に残っています。対抗戦で行われたペットボトル落としては、敵味方関係なく全員が全力で応援していて、一年生の頃と比べ、見違えるほど心が通い合ったと感じました。

そして、ついに最高学年の三年生。最大の行事である修学旅行は、校外学習、宿泊学習よりさらに楽しく、クラスの仲もより一層深まりました。たくさんふざけて、たくさん笑いあった時間は、私たちの心に一生残る大切な宝物です。総合発表会では、みんながそれぞれの役割を全うしていて、笑顔にあふれ、とてもよい発表会になりました。生徒会部門の劇で着替えに時間がかかってしまった人のために、役者がアドリブで話をつないだことも、今となっては忘れられない大切な思い出です。一、二年生を引っ張っていかねばならない責任感と、多くのことを成し遂げていくことで得た自信によって、私たちはさらに成長することができました。

さて、もう卒業の時間が刻一刻と迫ってきています。今まで側にいた三年生のみんな。一緒にさまざまなことを学び、たわいもない会話で笑い、喜びを分かち合うのも今日が最後だと思うと、とてもさみしく思います。充実した三年間を送ることができたのは、先生方、後輩の皆さん、保護者の皆様のおかげです。今まで時に厳しく、時に優しくご指導くださいました先生方、本当にお世話になりました。ご迷惑をかけることも多々あったと思いますが、私たちが辛いときや困っているときにかけていただいた言葉によって私たちは救われました。在校生の皆さん。これから新一年生を迎え、またひとつ大人になります。大変なことも増えると思いますが、皆さんなら困難を乗り越えられると信じています。残りの中学校生活を大切にして頑張ってください。応援しています。

お父さん、お母さん。たくさん心配や迷惑をかけてきました。「あれやれ、これやれ」「塾いけ」「塾いけ」と何度も言われ、カチンときたこともありましたが、私を大事にしてくれているからこそ、言ってくれていたと今なら思えます。十五年間大切に育ててくれてありがとう。これからも迷惑をかけてしまうと思いますが、自分の夢に向かい頑張っていくので支えてください。

私たち三年生は新しい環境でも夢を追い続け、様々な困難にぶつかったとしても、目標に向かって努力し続けます。最後になりましたが、三年間育ててくださったすべての皆様に感謝し、陵北中学校のますますの発展を祈って、答辞とさせていただきます。



